

平成20年度 病害虫発生予察情報

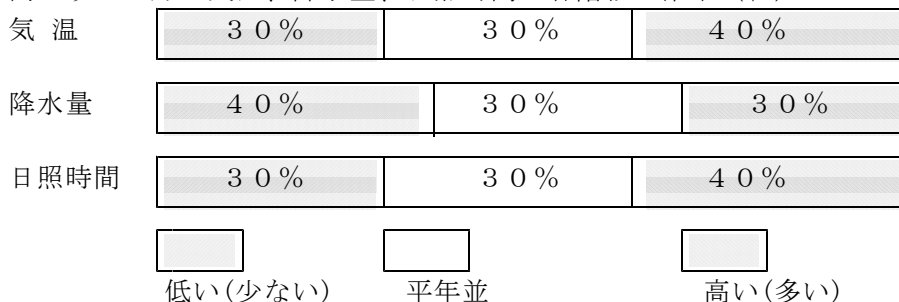
発生予報 第1号 (4月)

平成20年 4月 1日
島 根 県

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病害虫名 | 予想発生量 |
|------|------|--------------|-------|
| 普通作物 | ムギ | さび病類 | やや多い |
| | | 赤かび病 | 平年並 |
| | | うどんこ病 | 平年並 |
| 果樹 | イネ | イネスズムシ | 平年並 |
| | ナシ | 黒斑病 | 平年並 |
| 野菜 | タマネギ | ハダニ類 | やや少ない |
| | | ボトリス属菌による葉枯れ | 少ない |
| | | 白色疫病 | やや少ない |
| | イチゴ | べと病 | 平年並 |
| | | 腐敗病・軟腐病 | やや少ない |
| | | 灰色かび病 | 平年並 |
| | | アブラムシ類 | 平年並 |

中国地方1か月予報 (3月29日～4月28日・広島地方気象台3月28日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類

予報内容

発生地方 県下全域

発生時期 早い

発生量 やや多い

予報の根拠

①オオムギでは発病程度の高い圃場が認められる(3月末の発生確認は平成6年以来14年ぶり)。

②ムギの生育は平年並みである。

③4月の気象は本病の発生を抑制する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県下全域

発生時期 早い

発生量 平年並

予報の根拠

①ムギの生育は平年並みである。

②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（平成4年以降、3月末の発生は未確認）。
- ②ムギの生育は平年並みである。
- ③4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県下全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年の新成虫発生量は平年並み（平年比53%、前年比71%）で、本年の越冬量は平年並みと考えられる。
- ②4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下二十世紀栽培地帯
発生時期 やや遅い
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年の発生量は平年並みである。
- ②ナシの生育進度は平年に比べてやや遅い。
- ③4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

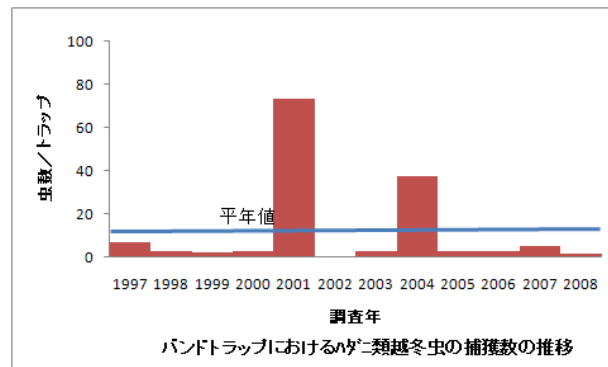
(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は42.9%（平年53.7%）、平均越冬虫数は1.2頭/バンド（平年12.5頭/バンド）と平年に比べてやや少ない。
- ②4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

① 3月下旬の巡回調査で発生は確認されていない（平年発病株率0.07%）。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率は35.0%（平年26.3%）、発病株率は0.5%（平年1.0%）とほぼ平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生に抑制的である。

(3) ベと病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬における越年罹病株の発生圃場率は20.0%（平年10.6%）、発病株率は0.7株/1万株（平年0.9株/1万株）とほぼ平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が5.0%（平年40.2%）、発病株率は0.02%（平年0.6%）と平年に比べてやや少ない。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病株率が3.3%（平年3.0%）と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が14.3%（平年14.4%）、寄生株率は1.4%（平年0.5%）とほぼ平年並みである。

② 4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

| | | | | |
|--------|--------|---------------------|--------|--------|
| 早い | やや早い | 平年並 | やや遅い | 遅い |
| 6日以上早い | 3～5日早い | 平年値を中心として 前後2日以内 | 3～5日遅い | 6日以上遅い |

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

| | | | | |
|-----------|-----------|-------------------------|-----------|-----------|
| 少ない | やや少ない | 平年並 | やや多い | 多い |
| 外側10%の入る幅 | 外側20%の入る幅 | 平年値を中心として 40%の度数の入る幅 | 外側20%の入る幅 | 外側10%の入る幅 |

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは <http://www.jpnpn.ne.jp/shimane>

(農業技術センターのアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu>)

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所
 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)
 〒693-0035 出雲市芦渡町2440
 TEL 0853-22-6772
 FAX 0853-24-3342
 e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp